

北九州学術研究都市フェア

開催結果報告書

平成30年2月

(公財)北九州産業学術推進機構

目 次

1. 開催概要	1
2. 展示会	2
3. セミナー	5
4. アンケート結果	9
5. 広報活動	20
6. 開催風景(写真)	22

1. 開催概要

名 称

「北九州学術研究都市フェア」

会 期

平成29年10月11日(水)～13日(金) 10:00～17:00

会 場

西日本総合展示場・新館
北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

主 催

公益財団法人北九州産業学術推進機構

開催趣旨

北九州学術研究都市の大学や研究機関、関連企業等の研究成果や活動内容を広く市内外にPRし、新たな産学連携の機会の創出を図っていくため、市内で開催される展示会の中でも、多数の来場者数が期待できるイベントのひとつである「エコテクノ2017」の併催事業として開催するものです。

同時開催

エコテクノ2017～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～
中小企業テクノフェアin九州2017
エコ・ベンチャー・メッセ2017
第12回KVICフェア

出展機関数

20機関

来場者数

(同時開催イベントを含む)

10月11日(水)(晴/曇)	10,855人
10月12日(木)(曇)	10,928人
10月13日(金)(晴/曇)	9,283人
合計:	31,066人

2. 展示会

会場レイアウト



小間番号	北九州学術研究都市フェア出展企業名
KG-01	九州工業大学 高嶋一登研究室
KG-02	九州工業大学 馬研究室
KG-03	九州工業大学 早瀬研究室
KG-04	北九州学術研究都市 紹介パネル展示
KG-05	北九州市立大学 環境技術研究所
KG-06	(公財)北九州産業学術推進機構 半導体・エレクトロニクス技術センター
KG-07	早稲田大学 先端バイオエレクトロニクス研究室
KG-08	早稲田大学 情報アーキテクチャ分野
KG-09	(公財)北九州産業学術推進機構 ロボット技術センター
KG-10	早稲田大学 機械システム設計研究室
KG-11	早稲田大学 ディペンダブル情報システム研究室
KG-12	ひびしんキャピタル(株)
KG-13	QB Capital,LLC
KG-14	(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ
KG-15	(公財)北九州産業学術推進機構 自動車技術センター
KG-16	(公財)北九州産業学術推進機構 国家戦略特区ライン

KG-01 高嶋研究室	KG-02 馬研究室	KG-03 早瀬研究室	KG-04 北九州学術研究都市 紹介パネル展示 他	
九州工業大学				
先制医療工学研究センター				
北九州市立大学 KG-05			FAIS 半導体・ エレクトロニクス 技術センター	
都市エネルギーマネジメント 研究センター			KG-06 日本プライスマネジメント(株)/(株)豊光社 (株)マリンテック/(株)ロクリア ファーム・アイ/京都電子工業(株)	
KG-07 先端バイオ エレクトロニクス 研究室	KG-08 情報アーキ テクチャ分野		新日本非破 壊検査(株)	産業用ロボット 導入支援センター
早稲田大学			FAIS ロボット技術センター KG-09	
KG-10 機械システム設計 研究室	KG-11 ディペンダブル 情報システム研究室		八祥産業(株) (株)三和綜合土木	九工大 西田研究室
KG-12 ひびしん キャピタル(株)	KG-13 QB Capital LLC	KG-14 (株)FFGベン チャービジ ネスパート ナーズ	KG-15	KG-16 (株)サムロック (有)ICS SAKABE
ベンチャーキャピタル			FAIS 自動車 技術センター	FAIS 国家戦略 特区ライン

2. 展示会

展示内容

※リーフレット掲載内容

出展企業名		展示内容
北九州市立大学	環境技術研究所	環境技術研究所が「都市エネルギーシステム」・「災害に強いまちづくり」・「環境との共生」・「健康の維持」の4領域から、市民にとって快適な環境を保証しながら持続可能な都市機能を実現するために取り組む研究開発の事例や世界的な拠点化を目指す重点分野について紹介します。
九州工業大学	高嶋一登研究室	PVDFなどの有機強誘電体を用いた触覚センサや形状記憶ポリマーを用いたアクチュエータなど、高嶋一登研究室の研究内容を、パネルや試作品等を用いて分かりやすく紹介します。
	馬研究室	低コスト、高性能のナノ機能材料の設計、合成、性質に関する研究を行っています。また得た材料は太陽電池、燃料電池、二次電池及びスーパーキャパシタなどへの応用研究もっており、最新の研究成果を紹介します。
	早瀬研究室	円筒形太陽電池を用いたネットワークセンサーシステムを展示します。
早稲田大学	情報アーキテクチャー分野	早稲田大学大学院情報生産システム研究科の情報アーキテクチャー分野におけるIoT(Internet of Things)を利用した生産システムおよびエコシステムに関する研究を紹介します。
	先端バイオエレクトロニクス研究室	当研究室では生体素材と電子素子をイオンでつなぐバイオイオントロンクス研究を行っており、開発した各種サンプルを展示します。
	ディペンダブル情報システム研究室	ネットワークに繋がるIoT機器のセキュリティーを集積回路を用いて高める研究をしています。複製不可能デバイスPUFと真の乱数発生器TRNGを用いた機器認証システムをパネルと実演で紹介いたします。
	機械システム設計研究室	医工連携およびインクルーシブデザインにより、当研究室で開発した歩行や起立、持ち上げなどの様々な動作を補助する機器を展示・デモによって紹介します。
(公財)福岡県リサイクル総合研究事業化センター		学研都市にあるリサイクルに特化した福岡県の支援機関です。循環型社会の形成に向けて、産学官民の共同によるリサイクル技術と社会システム構築に関する研究開発の支援を行っています。支援制度や研究開発の事例等を紹介いたします。
北九州市環境エレクトロニクス研究所		北九州市環境エレクトロニクス研究所の概要や取組内容について、パネルで紹介いたします。
(公財)北九州産業学術推進機構	(公財)北九州産業学術推進機構	公益財団法人北九州産業学術推進機構【FAIS(フェイス)】は、北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。
	半導体・エレクトロニクス技術センター	半導体・エレクトロニクス技術センターでは「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」の活動を支援しています。参画企業の特徴あるLED製品とLEDを活用した新たなアプリケーションをご紹介します。展示企業:日本プライスマネジメント(株)、(株)豊光社、(株)マリントック、(株)ロクリア、フォーム・アイ、京都電子工業(株)
	自動車技術センター	1.自動車技術センターの役割と事業内容、研究会活動をパネル等で紹介します。2.市内企業が取り組む自動車部品の軽量化や、特徴ある先端技術をパネルと実際の部品展示で紹介いたします。3.連携大学院で行われるプリウスやコムスを使った自動運転実習の様態をビデオで紹介いたします。
	ロボット技術センター	ロボット関連の研究開発・実用化支援活動及び産業用ロボット導入支援活動を紹介します。【展示品】山林環境計測ロボット(九州工業大学 西田健研究室)、スレート屋根補修ロボット((株)三和綜合土木)、橋脚等点検ドローン(新日本非破壊検査(株))、新幹線車両洗浄ロボット(八祥産業(株))、産業用ロボット関連技術(産業用ロボット導入支援センター)
	国家戦略特区ライン	介護ロボット等の活用による「先進的介護」の実証・実装の取り組みや、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を運営し介護ロボット等の開発や改良を支援しています。展示企業:(株)ラムロック、(有)ICS SAKABE
ベンチャーキャピタル		私たちは、ベンチャー企業のあらゆるステージでの支援を行うため、ファイナンス、コンサルティング、コーディネートとの3つの重要な要素を提供することで、更なる企業価値の創造を支援し、地域での起業・企業成長に大きく貢献します。
	(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ	当社は、ふくおかフィナンシャルグループのベンチャーキャピタルです。大学発ベンチャーを始めとしたあらゆるステージのベンチャーやニュービジネスを全面的にバックアップし新たな産業創出に貢献して参ります。
	ひびしんキャピタル(株)	ファンドを活用した直接投資並びに企業価値の向上を目的とした育成を行う等、ハズオン機能を備えた地域密着型キャピタル会社として、次世代を担うベンチャー企業さまに対して、更なる企業価値の創造をご支援して参ります。
	QB Capital,LLC	九州地域に拠点をおき、大学の技術シーズおよびシード・アーリー段階の大学発ベンチャーを一気通貫でハズオン支援するベンチャーキャピタルで、大学の「知」を活用した地域発イノベーションの創出をめざしています。

2. 展示会

出展社プレゼンテーション

ベンチャーキャピタルの目から見た地域におけるベンチャー企業創出

日時：平成29年10月12日(木) 10:30~12:00
主催：公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)
受講：32名
内容：地域におけるベンチャー創出をテーマとした県内3社のVCによる講演及びパネルディスカッション
講師：【パート1】
講演①
(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ 代表取締役社長 福田 知 氏
講演②
ひびしんキャピタル(株) 代表取締役 八山 哲夫 氏
講演③
QBCapital,LLC 代表パートナー 本藤 孝 氏
【パート2】
パネルディスカッション
テーマ：「北九州におけるベンチャー企業の創出」
コーディネーター：
吉村 英俊 氏 (北九州市立大学地域戦略研究所 教授)
パネリスト：
福田 知 氏((株)FFGベンチャービジネスパートナーズ代表取締役社長)
八山哲夫氏(ひびしんキャピタル(株)代表取締役)
本藤孝氏(QBCapital,LLC代表パートナー)

インクルーシブデザインによるライフサポート機器の開発

日時：平成29年10月12日(木) 13:00~13:30
主催：早稲田大学 機械システム設計研究室
受講：30名
内容：エンジニアだけでなく、患者や医師、介護者など様々な方々と開発を進める事例を紹介。
講師：早稲田大学 理工学術院 大学院情報生産システム研究科 教授 田中 英一郎 氏



3. セミナー

地域エネルギーマネジメント活動紹介 - 地域電力システムの最適化について -

日時 平成29年10月11日(水) 13:30~15:30
会場 セミナー会場B
主催 公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)
受講 62名
内容

平成28年度に地域エネルギーマネジメント技術の研究開発、実装、事業化を進め、北九州市の地域エネルギーマネジメント拠点としてのブランド化を図ることを目的として「北九州学術研究都市」の教授を中心にエネルギーマネジメント研究会を立ち上げました。
本セミナーでは前年度の活動内容や平成29年度から検討している地域エネルギーマネジメント技術研究開発の個別シーズ紹介、北九州地域電力会社(株)北九州パワーの今後の展望など、地域エネルギー発展に向けた取組みについて講演しました。

プログラム

13:30~13:35	主催者挨拶
13:35~13:45	エネルギーマネジメント研究会のこれまでの取組みについて (株)エックス都市研究所 主任研究員 永富 聡 氏
13:45~13:55	再生可能エネルギーの大量導入を加速する地域電力供給システム・需給マネジメント方式の開発 九州工業大学 教授 三谷 康範 氏
13:55~14:05	スパースモデリングにもとづく電力ネットワークの大規模データ分析 北九州市立大学 教授 永原 正章 氏
14:05~14:15	文書マネジメントシステム等導入に伴うペーパーレス化による業務施設の環境性能向上効果検証 北九州市立大学 准教授 牛房 義明 氏
14:15~14:25	小売電気事業者における中小企業への電力供給のための情報技術を利用したビジネスモデル 早稲田大学 教授 藤村 茂 氏
14:25~14:45	北九州パワーの今後の展望 (株)北九州パワー 代表取締役 千歳 昭博 氏
14:45~15:30	地域エネルギーの発展に向けた議論および取りまとめ (株)エックス都市研究所 主任研究員 永富 聡 氏



3. セミナー

快適で持続可能な都市機能の実現に向けて ～環境技術研究所の取り組み～

日時 平成29年10月12日(木) 10:30～12:00

会場 セミナー会場B

主催 北九州市立大学環境技術研究所

受講 88名

内容

環境技術研究所では、低炭素社会が要求される中で、「都市エネルギーシステム」・「災害に強いまちづくり」・「環境との共生」・「健康の維持」の4領域から、市民にとって快適な環境を保証しながら持続可能な都市機能を実現するための研究開発に取り組んでいます。本セミナーでは、特に社会的期待やニーズが高く、飛躍的な経済発展につながる世界的な研究開発拠点化を目指す重点分野について、最先端の動向を紹介しました。

プログラム

10:30～10:40 開会挨拶

北九州市立大学 理事・環境技術研究所長 梶原 昭博 氏
(国際環境工学部 教授)

10:40～11:20 北九州市立大学環境技術研究所における安心・安全な社会への取り組み:先制医療工学への挑戦

北九州市立大学 先制医療工学研究センター長 櫻井 和朗 氏
(国際環境工学部 教授)

11:20～12:00 OECDグリーン成長モデル指定都市の大学間連携～都市エネルギーマネジメントによる低炭素社会の実現に向けて～

北九州市立大学
都市エネルギーマネジメント研究センター長 上江洲 一也 氏
(国際環境工学部 教授)

北九州市立大学
都市エネルギーマネジメント研究センター
副センター長 牛房 義明 氏(経済学部 准教授)

ひびきのAI社会実装研究会活動紹介－北九州におけるAI技術の研究・実装の取り組み－

日時 平成29年10月12日(木) 10:00～12:00

会場 西日本総合展示場新館 AIM3階 セミナー会場

主催 (公財)北九州産業学術推進機構 (FAIS)

受講 59名

内容

ひびきのAI社会実装研究会が発足し1年経過しました。研究会の活動総括を報告するとともに、研究会及び北九州の研究者・企業によるAI技術の研究・実装の事例を紹介しました。

プログラム

10:00～10:30 研究会の活動総括報告

九州工業大学 特命教授 名誉教授 ひびきのAI社会実装研究会
会長 石川 真澄 氏

10:30～11:00 省エネルギーのための人工知能技術

北九州市立大学環境技術研究所 教授 永原 正章 氏

11:00～11:30 機械学習による設備・装置のエンジニアリングデータ活用

安川情報システム(株) 技術開発本部AI開発部
技術担当 岡 あや子 氏

11:30～12:00 メンタル・コンディション・チェック・アプリへのAI活用

(株)プラテック 代表取締役社長 岩崎 正明 氏

3. セミナー

先進的介護を目指す介護ロボット等の紹介

日時 平成29年10月12日(木) 13:30~15:00
会場 西日本総合展示場新館 AIM3階 セミナー会場
主催 (公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)
受講 72名
内容 少子高齢化や生産年齢人口の減少、高い離職率などによる介護人材の不足が全国的な課題となる中、介護現場の負担軽減や質の高いケアを提供しこれらの課題を解決する手段として、介護ロボットへの期待が高まっています。こうした中、介護ロボット開発、導入の現状や動向について紹介しました。

プログラム

- 13:30~14:30 福祉用具・介護ロボット等の最新の動向
(公財)テクノエイド協会 企画部長 五島 清国 氏
- 14:30~15:00 介護ロボット等を活用した先進的介護について
-北九州市の取り組み-
北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室
係長 渡辺 泰三 氏

第12回 先端エコフットィング技術研究開発センター ワークショップ

「攻める環境の工学：新資源の創成」

日時 平成29年10月12日(木) 14:00~15:30
会場 西日本総合展示場新館 AIM3階 セミナー会場
主催 九州工業大学 先端エコフットィング技術研究開発センター
受講 46名
内容 先端エコフットィング技術研究開発センターは開設以来、社会課題・地球課題に対して「環境の工学」の科学技術による挑戦を行なってきました。第12回となる今回のワークショップは、「攻める環境の工学：新資源の創成」として、4題の研究講演による最先端の「環境の工学」の研究成果を概説しました。

プログラム

- 14:00~14:25 大気の資源化(窒素をアンモニアへ)
九州工業大学 先端エコフットィング技術研究開発センター
春山 哲也 氏 (生命体工学研究科 教授)
- 14:25~14:45 大気活性成分の定量
九州工業大学 先端エコフットィング技術研究開発センター
村上 直也 氏 (工学研究院 准教授)
- 14:45~15:05 大気の資源化(CO2を一酸化炭素やギ酸へ)
九州工業大学 先端エコフットィング技術研究開発センター
高辻 義行 氏 (生命体工学研究科 助教)
- 15:05~15:30 汚泥の減容と資源化
九州工業大学 先端エコフットィング技術研究開発センター
前田 憲成 氏 (生命体工学研究科 准教授)



3. セミナー

資源・エネルギーの有効利用と環境のための技術運用

日時 平成29年10月12日(木) 16:30~18:00
会場 西日本総合展示場新館 AIM3階 セミナー会場
主催 北九州市立大学、(公社)石油学会九州・沖縄支部
受講 23名
内容

資源・エネルギー・環境における課題解決に向けた技術開発が求められ、加えて、開発技術の効率的な運用が実用上の面で重要となります。本セミナーでは、技術の実用化・運用の面から研究に取り組みられている研究者・技術者による講演を行います。現在の技術や新技術の運用に関して解決すべき事項とその取り組みに関して最新の動向を紹介しました。

プログラム

16:30~16:35	開会挨拶
16:35~17:15	エネルギーキャリアとしてのアンモニアを合成・分解するための触媒開発 大分大学工学部 准教授 永岡 勝俊 氏
17:15~17:55	赤外線非破壊評価による設備構造物維持保全の高度化 神戸大学大学院 工学研究科 教授 阪上 隆英 氏
17:55~18:00	閉会挨拶

システム開発技術カレッジ&ひびきの半導体アカデミー合同セミナー

「自動運転時代のセンシング技術」

日時 平成29年10月13日(金) 10:20~12:00
会場 西日本総合展示場新館 AIM3階 セミナー会場
主催 (公財)福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)
(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)
受講 55名
内容

現在、自動車メーカーや自動車部品メーカーなどが自動運転車実現に向け、様々な開発を行っています。今回は自動運転の実現に必要なセンシング技術を中心に世の中の技術動向を紹介するとともに、アイシン精機の取り組みも紹介しました。

講師 アイシン精機株式会社 電子商品本部 電子先行開発部 制御技術開発グループ
九州開発センター センター長 音川 昌也 氏



4. アンケート集計（展示会来場者アンケート）

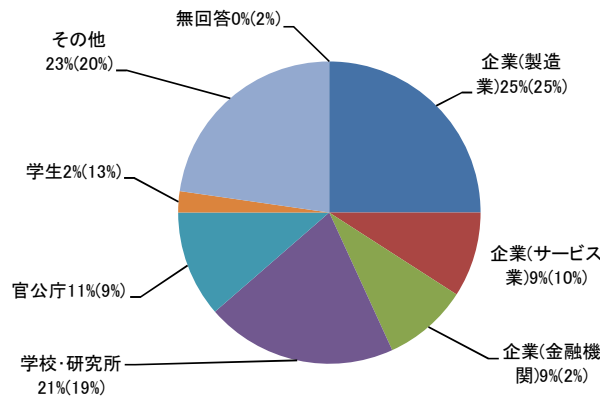
※()の数字は昨年度(第16回産学連携フェア)実績です。

フェア期間中、会場、展示会場等において参加者へのアンケートを実施しました。

回収枚数44枚を対象に集計

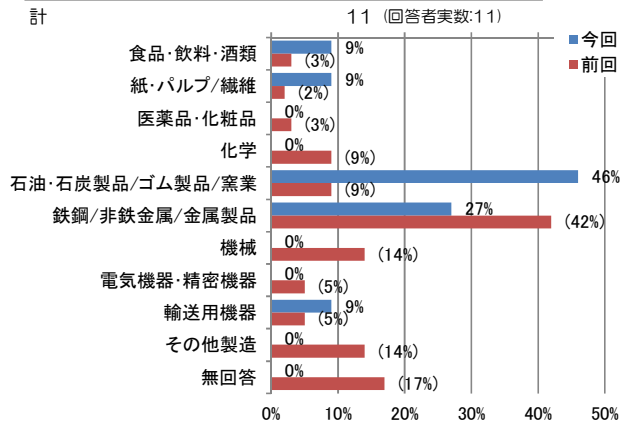
Q1.あなたの業種は何ですか

企業(製造業)	11	/	25%	(25%)
企業(サービス業)	4	/	9%	(10%)
企業(金融機関)	4	/	9%	(2%)
学校・研究所	9	/	21%	(19%)
官公庁	5	/	11%	(9%)
学生	1	/	2%	(13%)
その他	10	/	23%	(20%)
無回答	0	/	0%	(2%)
計	44			



Q1-1.Q1で「企業(製造業)」を選ばれた方は、業種の詳細をお聞かせください(複数回答可)

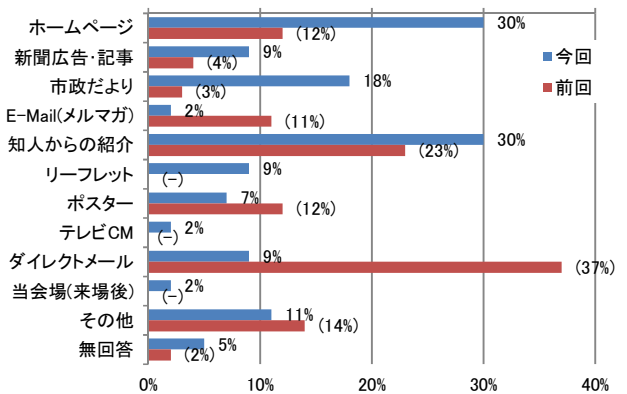
食品・飲料・酒類	1	/	9%	(3%)
紙・パルプ/繊維	1	/	9%	(2%)
医薬品・化粧品	0	/	0%	(3%)
化学	0	/	0%	(9%)
石油・石炭製品/ゴム製品/窯業	5	/	46%	(9%)
鉄鋼/非鉄金属/金属製品	3	/	27%	(42%)
機械	0	/	0%	(14%)
電気機器・精密機器	0	/	0%	(5%)
輸送用機器	1	/	9%	(5%)
その他製造	0	/	0%	(14%)
無回答	0	/	0%	(17%)
計	11			(回答者実数:11)



※%および棒グラフは、回答者実数の11を分母に計算したものです。

Q2.北九州学術研究都市フェアを何で知りましたか(複数回答可)※フェア開催前にご覧になった広報ツールをお聞かせください

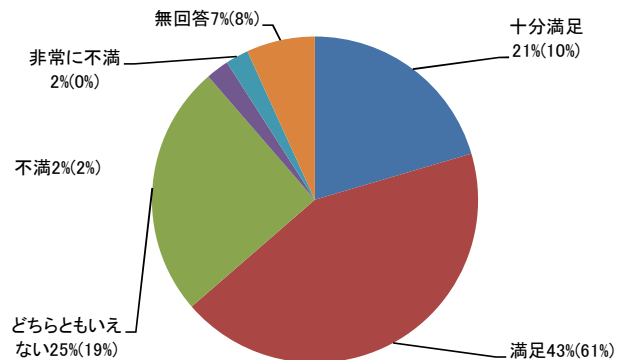
ホームページ	13	/	30%	(12%)
新聞広告・記事	4	/	9%	(4%)
市政だより	8	/	18%	(3%)
E-Mail(メルマガ)	1	/	2%	(11%)
知人からの紹介	13	/	30%	(23%)
リーフレット	4	/	9%	(-)
ポスター	3	/	7%	(12%)
テレビCM	1	/	2%	(-)
ダイレクトメール	4	/	9%	(37%)
当会場(来場後)	1	/	2%	(-)
その他	5	/	11%	(14%)
無回答	2	/	5%	(2%)
計	59			(回答者実数:44)



※%および棒グラフは、回答者実数の44を分母に計算したものです。

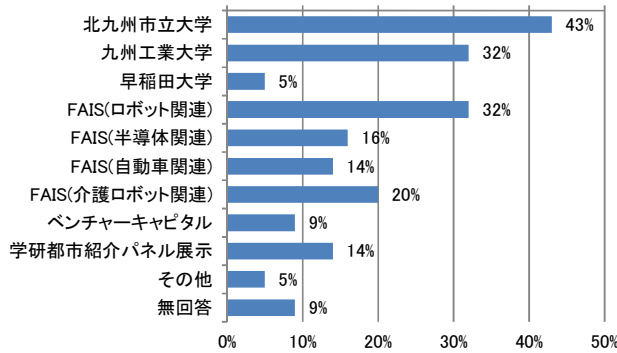
Q3.「北九州学術研究都市フェア(展示会)」の感想

十分満足	9	/	21%	(10%)
満足	19	/	43%	(61%)
どちらともいえない	11	/	25%	(19%)
不満	1	/	2%	(2%)
非常に不満	1	/	2%	(0%)
無回答	3	/	7%	(8%)
計	44			



Q4.よかったと思う展示企画がありましたら、教えてください(複数回答可)

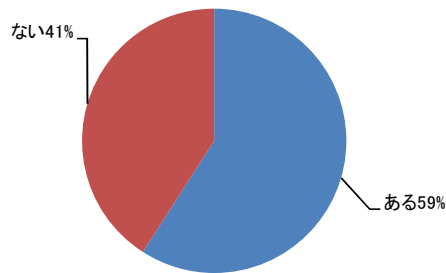
北九州市立大学	19 / 43%
九州工業大学	14 / 32%
早稲田大学	2 / 5%
FAIS(ロボット関連)	14 / 32%
FAIS(半導体関連)	7 / 16%
FAIS(自動車関連)	6 / 14%
FAIS(介護ロボット関連)	9 / 20%
ベンチャーキャピタル	4 / 9%
学研都市紹介パネル展示	6 / 14%
その他	2 / 5%
無回答	4 / 9%
計	87 (回答者実数:44)



※%および棒グラフは、回答者実数の44を分母に計算したものです。

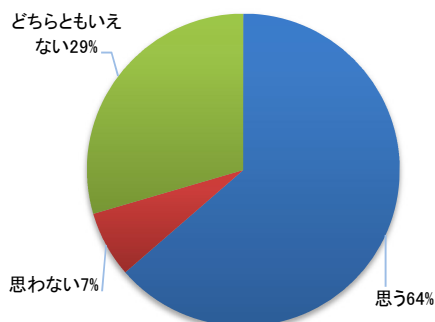
Q5.北九州学術研究都市に、行ったことはありますか

ある	26 / 59%
ない	18 / 41%
計	44



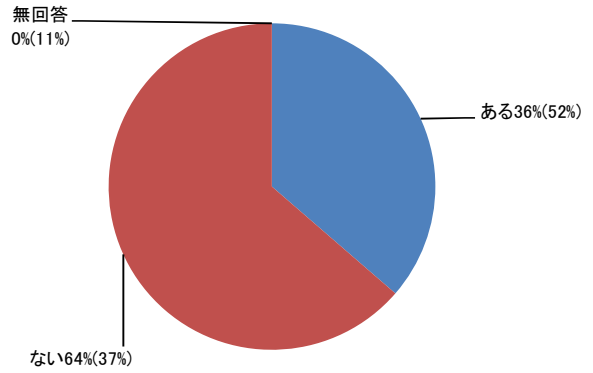
Q6.今回のフェアをご覧になり、今後、北九州学術研究都市と関わりを持ちたいと思われましたか

思う	28 / 64%
思わない	3 / 7%
どちらともいえない	13 / 29%
計	44



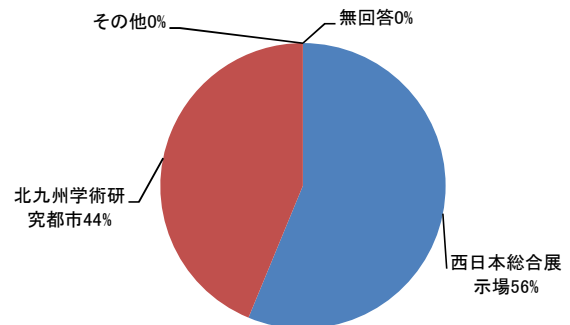
Q7.昨年まで、北九州学術研究都市で開催していた「北九州学術研究都市産学連携フェア」に参加したことがありますか

ある	16 / 36% (52%)
ない	28 / 64% (37%)
無回答	0 / 0% (11%)
計	44



Q7で「ある」と回答した方に質問します。Q7-1.次回、展示会に来場する場合、どこでの開催を希望しますか

西日本総合展示場	9 / 56%
北九州学術研究都市	7 / 44%
その他	0 / 0%
無回答	0 / 0%
計	16



Q8.その他、北九州学術研究都市フェア全般に対するご意見等、ご自由にご記入ください

〈主な意見〉

汽車の止まる停車場近くでの開催は便利。

企業ブースとの人数の差が生じているので、企業ブースの配置に考慮し、全ブースが平均的に人が訪れるようにして欲しい。

4. アンケート集計（展示会出展機関アンケート）

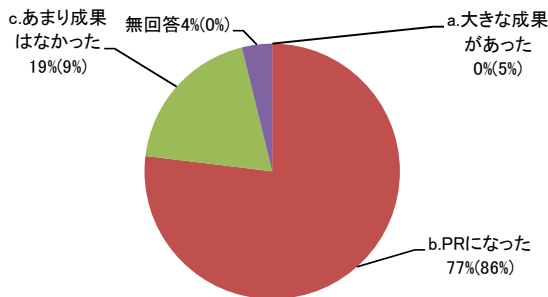
※（ ）の数字は昨年度(第16回産学連携フェア)実績です。

フェア期間中、展示会出展機関へのアンケートを実施しました。

回収枚数26枚を対象に集計

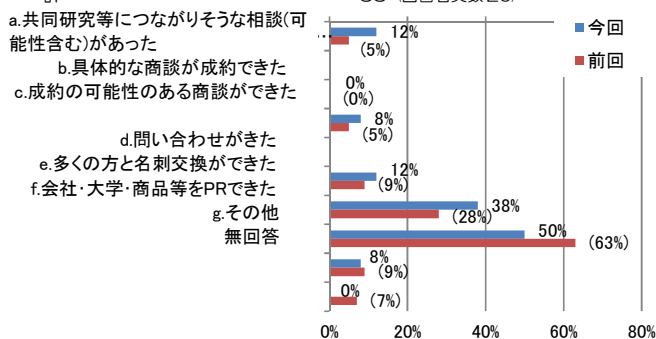
Q1.北九州学術研究都市フェア展示会への出展について

a.大きな成果があった	0 / 0%	(5%)
b.PRIになった	20 / 77%	(86%)
c.あまり成果はなかった	5 / 19%	(9%)
無回答	1 / 4%	(0%)
計	26	



Q2.北九州学術研究都市フェアでの具体的な成果についてお聞かせください(複数回答可)

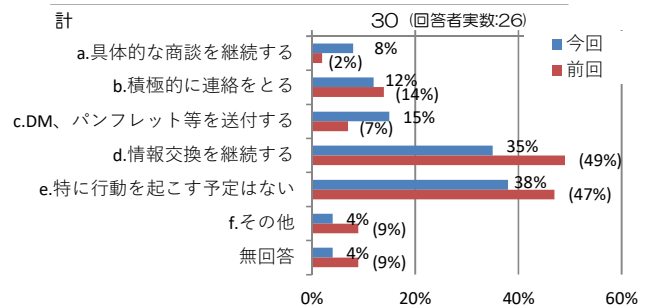
a.共同研究等につながりそうな相談(可能性含む)があった	3 / 12%	(5%)
b.具体的な商談が成約できた	0 / 0%	(0%)
c.成約の可能性のある商談ができた	2 / 8%	(5%)
d.問い合わせがきた	3 / 12%	(9%)
e.多くの方と名刺交換ができた	10 / 38%	(28%)
f.会社・大学・商品等をPRできた	13 / 50%	(63%)
g.その他	2 / 8%	(9%)
無回答	0 / 0%	(7%)
計	33	(回答者実数:26)



※および棒グラフは、回答者実数の26を分母に計算したものです。

Q3.北九州学術研究都市フェアでお知り合いになった方に対して何かアクションを起こされましたか(複数回答可)

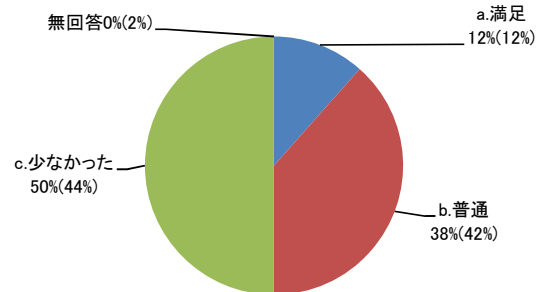
a.具体的な商談を継続する	2 / 8%	(2%)
b.積極的に連絡をとる	3 / 12%	(14%)
c.DM、パンフレット等を送付する	4 / 15%	(7%)
d.情報交換を継続する	9 / 35%	(49%)
e.特に行動を起こす予定はない	10 / 38%	(47%)
f.その他	1 / 4%	(9%)
無回答	1 / 4%	(9%)
計	30	(回答者実数:26)



※および棒グラフは、回答者実数の26を分母に計算したものです。

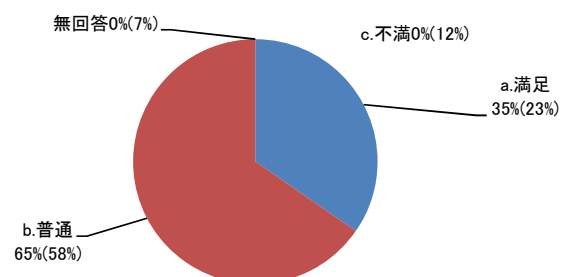
Q4.来場者数についてお聞かせください

a.満足	3 / 12%	(12%)
b.普通	10 / 38%	(42%)
c.少なかった	13 / 50%	(44%)
無回答	0 / 0%	(2%)
計	26	



Q5.準備段階から開催を通じて、全般的な運営はいかがでしたか

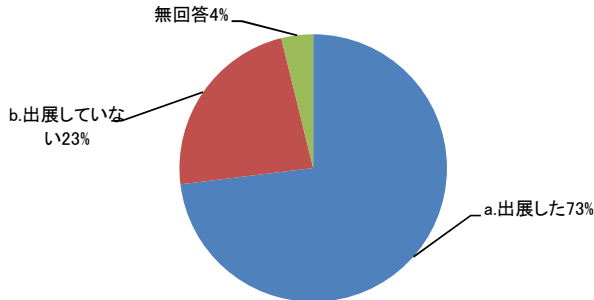
a.満足	9 / 35%	(23%)
b.普通	17 / 65%	(58%)
c.不満	0 / 0%	(12%)
無回答	0 / 0%	(7%)
計	26	



Q6.「産学連携フェア」との比較についてお聞かせください

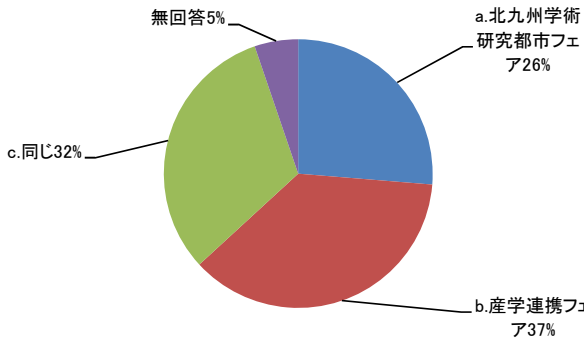
(1)昨年または一昨年に、産学連携フェアに出展しましたか

a.出展した	19 / 73%
b.出展していない	6 / 23%
無回答	1 / 4%
計	26



(Q6.(1)で、「a.出展した」と答えた方に質問します。)(2)今回の出展と近年の「産学連携フェア」への出展とを比較して、どちらのほうが、成果がありましたか

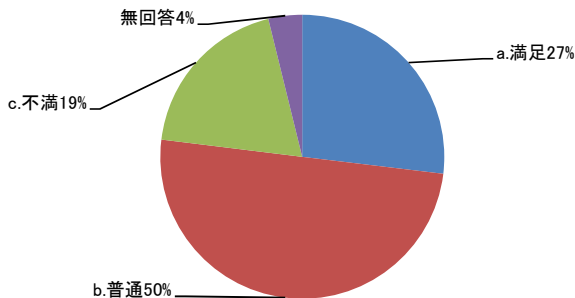
a.北九州学術研究都市フェア	5 / 26%
b.産学連携フェア	7 / 37%
c.同じ	6 / 32%
無回答	1 / 5%
計	19



Q7.今後の「北九州学術研究都市フェア」の方向性についてお聞かせください

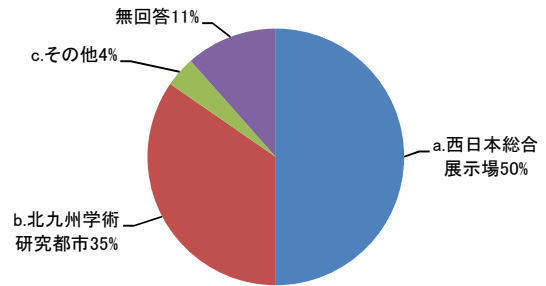
(1)今回の「エコテクノ2017」等との同時開催について、どう思いますか

a.満足	7 / 27%
b.普通	13 / 50%
c.不満	5 / 19%
無回答	1 / 4%
計	26



(2)展示会への出展をお願いする場合、どこでの開催を希望しますか

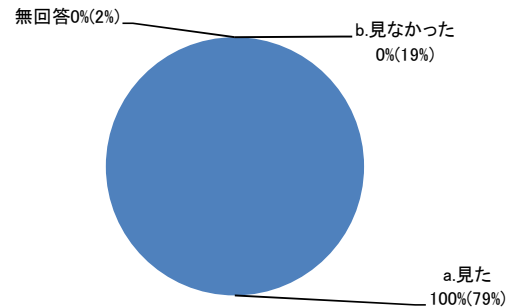
a.西日本総合展示場	13 / 50%
b.北九州学術研究都市	9 / 35%
c.その他	1 / 4%
無回答	3 / 11%
計	26



Q8.展示の他のブース(「エコテクノ2017」等、他の同時開催事業も含む)についてお聞かせください

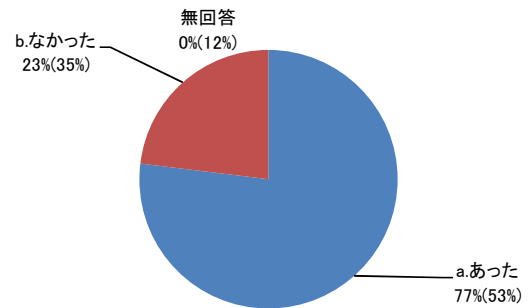
(1)他のブースをご覧になりましたか

a.見た	26 / 100% (79%)
b.見なかった	0 / 0% (19%)
無回答	0 / 0% (2%)
計	26



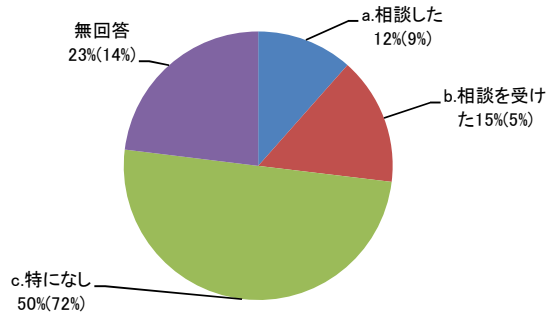
(2)興味を引くブースがありましたか

a.あった	20 / 77% (53%)
b.なかった	6 / 23% (35%)
無回答	0 / 0% (12%)
計	26



(3)他のブースの方と共同研究・商談等の相談をされましたか

a.相談した	3 / 12% (9%)
b.相談を受けた	4 / 15% (5%)
c.特になし	13 / 50% (72%)
無回答	6 / 23% (14%)
計	26



Q9.「北九州学術研究都市フェア」の感想や今後の開催についてのご意見、ご要望をお聞かせください

〈主な意見〉

WiFiが利用できて、展示会への出展が楽にできました。共同研究等の話のきっかけができました。ありがとうございました。

来場者が少なかったように感じる。周知活動により力を入れていただければと思いました。

学研都市での開催に比べて商談や相談が多い。機構であれば情報を持っているとの期待の表れだと判断している。

「産学連携フェア」に比べて多くの来場者があり、研究室のPRができました。無料送迎バスが、昼くらいにも一往復して頂けるとありがたいです。

「エコテクノ2017」の併催事業として、「北九州学術研究都市フェア」を開催しましたことはよかったですと思います。本会は企業との共同研究に至りませんでした。本研究室の研究については、もっと実用化ができる研究に力を入れるべきと感じました。

ブース等は広く設置備品等充実しており有難く思いました。

学研都市フェアに足を延ばす人が少なかったうえに目的意識も低く、こちらから積極的に誘導しないと通り過ぎてしまう人ばかりでした。

真に興味を持った来場者は少なかった。学研都市の魅力を伝えるには、学研都市に足を運んでもらうべき。

ひびきの開催に比べ、学生の見学者が少なかったように感じました。

福祉関係以外の展示会への出展は弊社としては珍しく福祉関係以外の販路開拓及び商品要望の聞き取りをおこなうことができ、商品の開発に活用することができました。

4. アンケート集計（セミナー受講者アンケート）

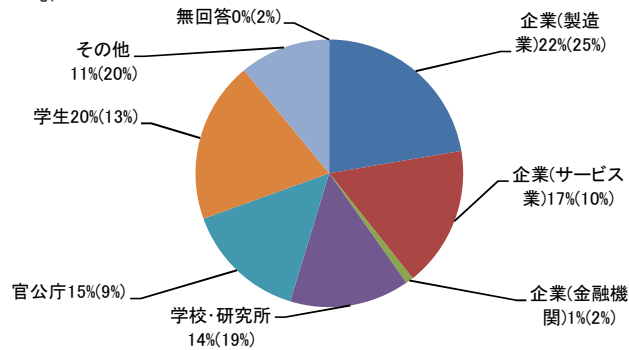
※（ ）の数字は昨年度(第16回産学連携フェア)実績です。

フェア期間中、セミナー受講者へのアンケートを実施しました。

回収枚数318枚を対象に集計

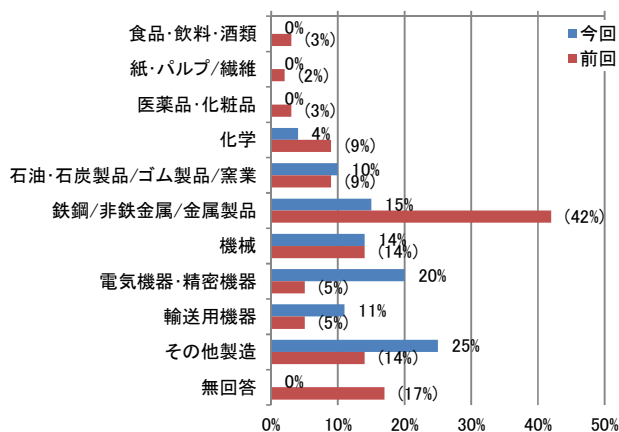
Q1.あなたの業種は何ですか

企業(製造業)	71 / 22% (25%)
企業(サービス業)	54 / 17% (10%)
企業(金融機関)	3 / 1% (2%)
学校・研究所	46 / 14% (19%)
官公庁	47 / 15% (9%)
学生	62 / 20% (13%)
その他	35 / 11% (20%)
無回答	0 / 0% (2%)
計	318



Q1-1.Q1で「企業(製造業)」を選ばれた方は、業種の詳細をお聞かせください(複数回答可)

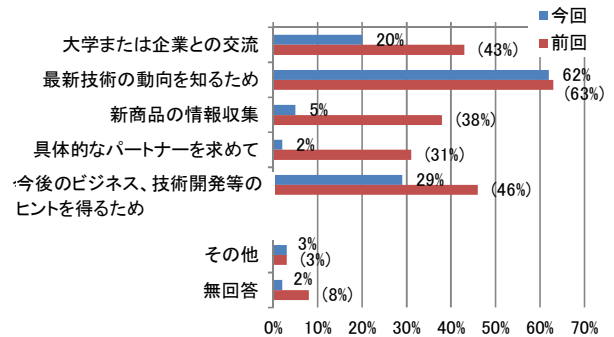
食品・飲料・酒類	0 / 0% (3%)
紙・パルプ/繊維	0 / 0% (2%)
医薬品・化粧品	0 / 0% (3%)
化学	3 / 4% (9%)
石油・石炭製品/ゴム製品/窯業	7 / 10% (9%)
鉄鋼/非鉄金属/金属製品	11 / 15% (42%)
機械	10 / 14% (14%)
電気機器・精密機器	14 / 20% (5%)
輸送用機器	8 / 11% (5%)
その他製造	18 / 25% (14%)
無回答	0 / 0% (17%)
計	71 (回答者実数:71)



※%および棒グラフは、回答者実数の71を分母に計算したものです。

Q2.どのようなことを期待して、今回のセミナーに参加されましたか(複数回答可)

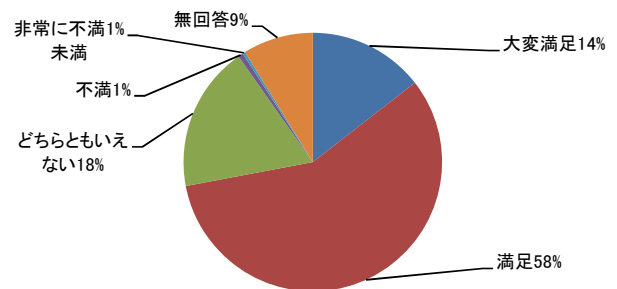
大学または企業との交流	63 / 20% (43%)
最新技術の動向を知るため	196 / 62% (63%)
新商品の情報収集	15 / 5% (38%)
具体的なパートナーを求めて	5 / 2% (31%)
今後のビジネス、技術開発等のヒントを得るため	93 / 29% (46%)
その他	9 / 3% (3%)
無回答	7 / 2% (8%)
計	388 (回答者実数:318)



※%および棒グラフは、回答者実数の318を分母に計算したものです。

Q2-1.上記の期待に応えられたでしょうか

大変満足	46 / 14%
満足	183 / 58%
どちらともいえない	58 / 18%
不満	2 / 1%
非常に不満	1 / 1%未満
無回答	28 / 9%
計	318

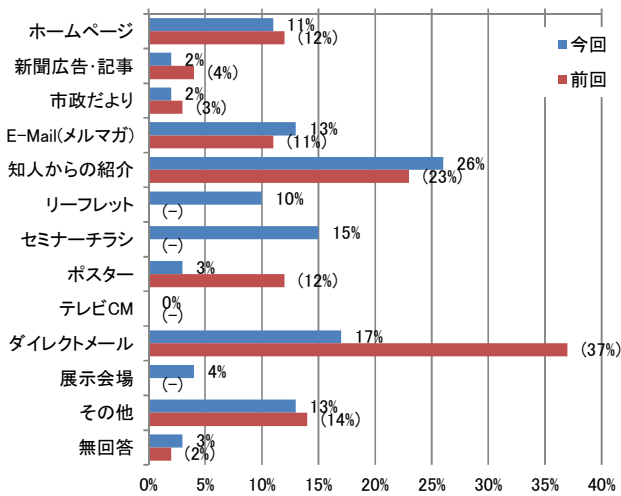


Q3.今回のセミナーを何で知りましたか(複数回答可)

※フェア開催前にご覧になった広報ツールをお聞かせ下さい。

ホームページ	34 / 11%	(12%)
新聞広告・記事	5 / 2%	(4%)
市政だより	6 / 2%	(3%)
E-Mail(メルマガ)	41 / 13%	(11%)
知人からの紹介	82 / 26%	(23%)
リーフレット	33 / 10%	(-)
セミナーチラシ	48 / 15%	(-)
ポスター	11 / 3%	(12%)
テレビCM	0 / 0%	(-)
ダイレクトメール	54 / 17%	(37%)
展示会場	13 / 4%	(-)
その他	40 / 13%	(14%)
無回答	11 / 3%	(2%)

計 378 (回答者実数:318)

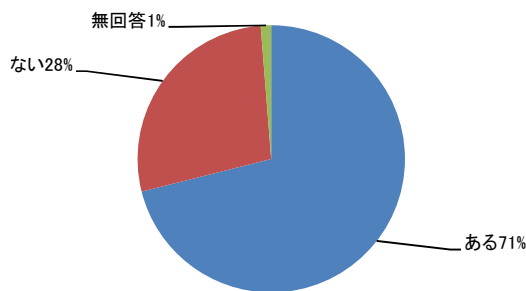


※%および棒グラフは、回答者実数の318を分母に計算したものです。

Q4.北九州学術研究都市に、行ったことはありますか

ある	226 / 71%
ない	88 / 28%
無回答	4 / 1%

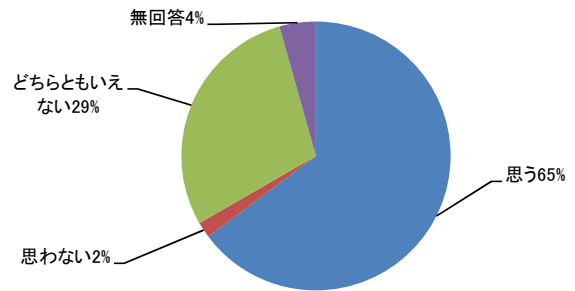
計 318



Q5.今回のフェアをご覧になり、今後、北九州学術研究都市と関わりを持ちたいと思いませんか

思う	206 / 65%
思わない	6 / 2%
どちらともいえない	92 / 29%
無回答	14 / 4%

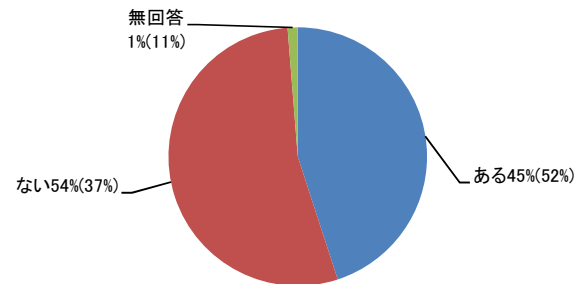
計 318



Q6.昨年まで、北九州学術研究都市で開催していた「北九州学術研究都市産学連携フェア」に参加したことがありますか

ある	143 / 45%	(52%)
ない	171 / 54%	(37%)
無回答	4 / 1%	(11%)

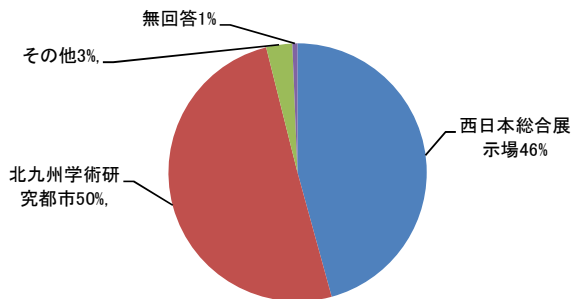
計 318



Q6で「ある」と回答した方に質問します。Q6-1.次回、セミナーに参加する場合、どこでの開催を希望しますか

西日本総合展示場	70 / 46%
北九州学術研究都市	77 / 50%
その他	5 / 3%
無回答	1 / 1%

計 153 (回答者実数:143、内10名が複数回答しているため)



※%および棒グラフは、回答実数の153を分母に計算したものです。

※その他の回答の詳細

- カジュアルな場所
- どちらでも良いです
- どちらでも可
- 主催者の判断による

Q7.その他、セミナー全般や別会場で開催している北九州学術研究都市フェアに対するご意見等、ご自由にご記入ください

〈主な意見〉

とても良いセミナーだったと思います。これからも期待して楽しみにしています。

周りのブースからの音がうるさく、聞き取り難かった。

後半が分かりにくかった。一般論や総論ばかりだった。具体的な話が聞きたかった。

差支えない範囲で結構なので、なるべく講演資料を配布してほしい。

新しい情報について知ることが出来、勉強になりました。ありがとうございました。

会場が細長く声が聞こえづらく、前方スクリーンが見えない。エアコン?の音がうるさい。

毎年度、新しい動きを伝えてもらえると助かる。来年度もまた参加したいと思えるセミナーを期待している。

学研都市と企業の成功事例をもう少しプロセスも含めご教授頂けると有難い。

4. アンケート集計（セミナー実施機関アンケート）

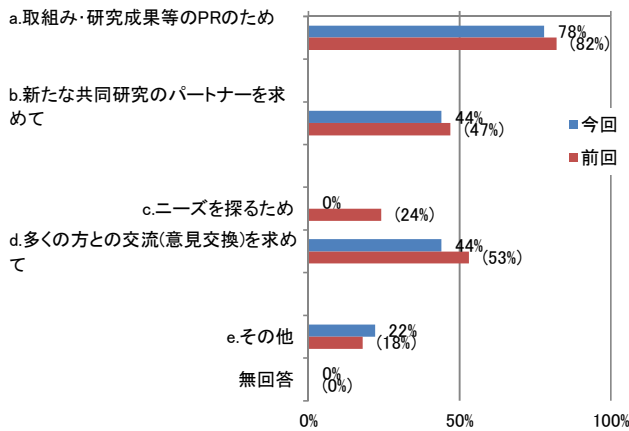
※()の数字は昨年度(第16回産学連携フェア)実績です。

フェア期間中、セミナー実施機関へのアンケートを実施しました。

回収枚数9枚を対象に集計

Q1.セミナー実施・開催の目的をお聞かせください(複数回答可)

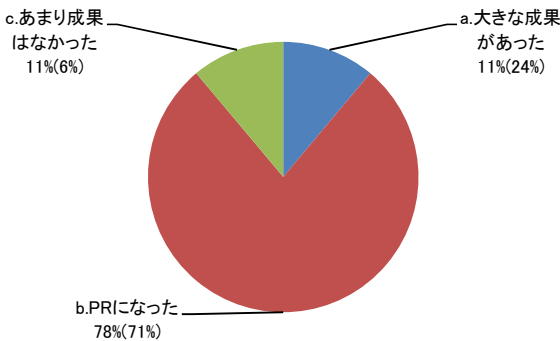
a.取組み・研究成果等のPRのため	7 / 78% (82%)
b.新たな共同研究のパートナーを求めて	4 / 44% (47%)
c.ニーズを探るため	0 / 0% (24%)
d.多くの方との交流(意見交換)を求めて	4 / 44% (53%)
e.その他	2 / 22% (18%)
無回答	0 / 0% (0%)
計	17 (回答者実数:9)



※%および棒グラフは、回答者実数の9を分母に計算したものです。

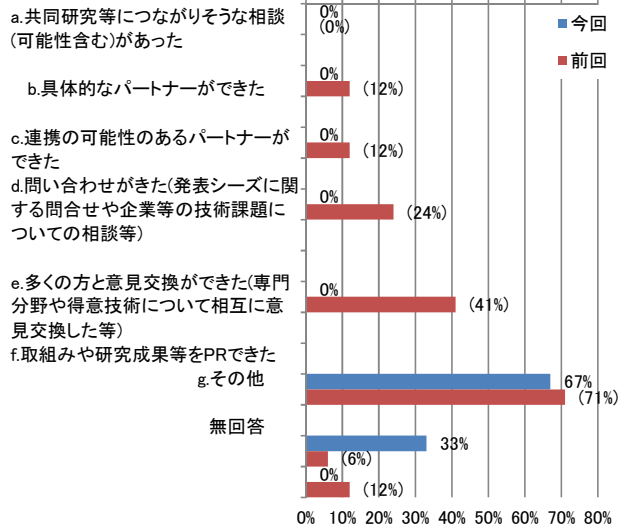
Q2.セミナー実施について

a.大きな成果があった	1 / 11% (24%)
b.PRになった	7 / 78% (71%)
c.あまり成果はなかった	1 / 11% (6%)
計	9



(Q2で、a,bにチェックした方にお伺いします)Q3.セミナー開催による具体的な成果についてお聞かせください(複数回答可)

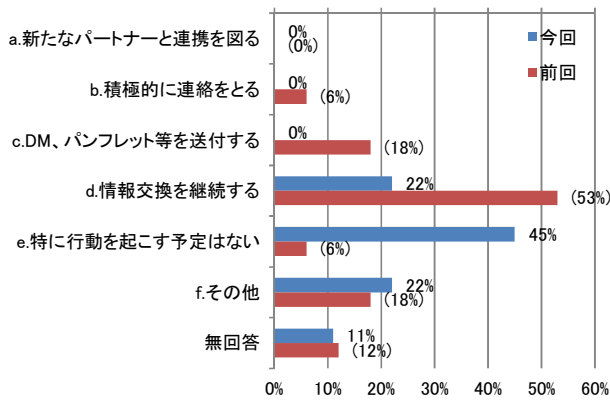
a.共同研究等につながりそうな相談(可能性含む)があった	0 / 0% (0%)
b.具体的なパートナーができた	0 / 0% (12%)
c.連携の可能性のあるパートナーができた	0 / 0% (12%)
d.問い合わせがきた(発表シーズに関する問合せや企業等の技術課題についての相談等)	0 / 0% (24%)
e.多くの方と意見交換ができた(専門分野や得意技術について相互に意見交換した等)	0 / 0% (41%)
f.取組みや研究成果等をPRできた	6 / 67% (71%)
g.その他	3 / 33% (6%)
無回答	0 / 0% (12%)
計	9 (回答者実数:9)



※%および棒グラフは、回答者実数の9を分母に計算したものです。

Q4.セミナーでお知り合いになった方に対して何かアクションを起こされましたか(複数回答可)

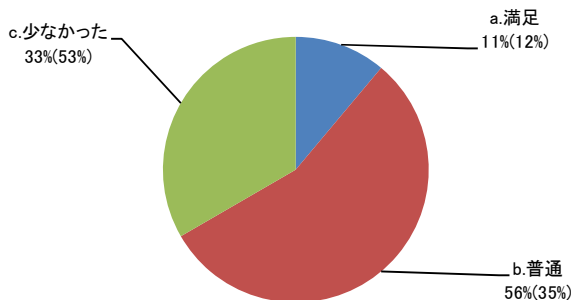
a.新たなパートナーと連携を図る	0 / 0%	(0%)
b.積極的に連絡をとる	0 / 0%	(6%)
c.DM、パンフレット等を送付する	0 / 0%	(18%)
d.情報交換を継続する	2 / 22%	(53%)
e.特に行動を起こす予定はない	4 / 45%	(6%)
f.その他	2 / 22%	(18%)
無回答	1 / 11%	(12%)
計	9 (回答者実数:9)	



※%および棒グラフは、回答者実数の9を分母に計算したものです。

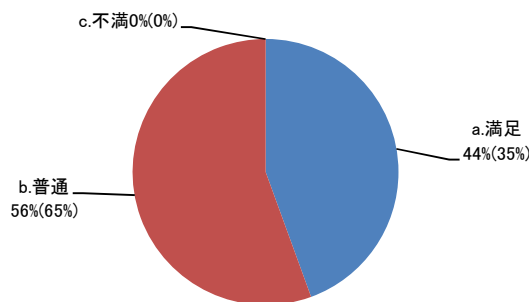
Q5.セミナーの来場者数についてお聞かせください

a.満足	1 / 11%	(12%)
b.普通	5 / 56%	(35%)
c.少なかった	3 / 33%	(53%)
計	9	



Q6.準備段階から開催まで、全般的な運営はいかがでしたか

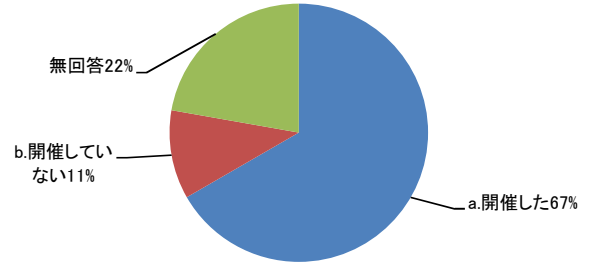
a.満足	4 / 44%	(35%)
b.普通	5 / 56%	(65%)
c.不満	0 / 0%	(0%)
計	9	



Q7.「産学連携フェア」との比較についてお聞かせください

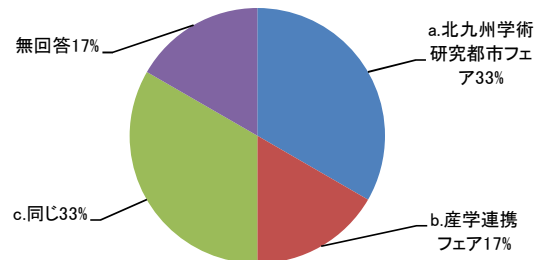
(1)昨年または一昨年に、産学連携フェアでセミナーを開催しましたか

a.開催した	6 / 67%
b.開催していない	1 / 11%
無回答	2 / 22%
計	9



(Q7.(1)で、「a.開催した」と答えた方に質問します。)(2)今回と近年の「産学連携フェア」との開催を比較して、どちらのほうが、成果がありましたか

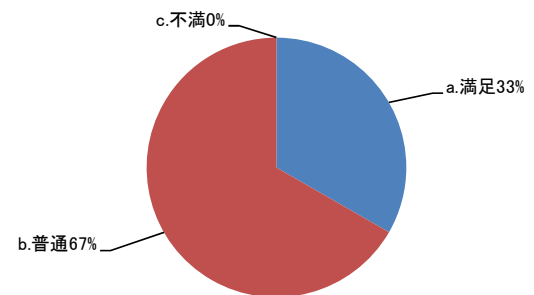
a.北九州学術研究都市フェア	2 / 33%
b.産学連携フェア	1 / 17%
c.同じ	2 / 33%
無回答	1 / 17%
計	6



Q8.今後の「北九州学術研究都市フェア」の方向性についてお聞かせください

(1)今回の「エコテクノ2017」等との同時開催でのセミナー開催について、どう思いますか

a.満足	3 / 33%
b.普通	6 / 67%
c.不満	0 / 0%
計	9



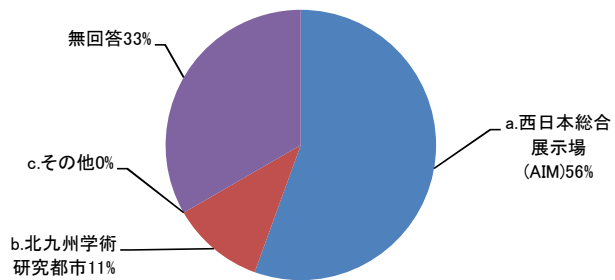
※理由

もう少し関連する展示会が望ましいが、人数が集まったので不満はありません

開催場所は便利だが、集約されていないので人が集まりにくい

(2)次回、セミナーを開催する場合、どこでの開催を希望しますか

a.西日本総合展示場(AIM)	5 / 56%
b.北九州学術研究都市	1 / 11%
c.その他	0 / 0%
無回答	3 / 33%
計	9



Q9.北九州学術研究都市フェアの感想や今後の開催についてのご意見、ご要望をお聞かせください

〈主な意見〉

交通の利便性からか、学生から民間企業まで多くの参加者を得ることができたのは有意義であった。

事前申し込み者数に比べ、実質数が少なかったのは残念です。講師控え室が遠かったのは、少し不都合がありました。



5. 広報活動

製 作 物

(同時開催イベントを含む)

・ポスター



・ダイレクトメール



・ホームページ



・会場案内図



6. 開催風景

